1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年8月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102690
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム たんぼぼの里
所在地	鹿児島市下福元町6718番地 (電話) 099-210-8812
自己評価作成日	令和元年8月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和元年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たんぼぼの里は鹿児島市の郊外にあり、広々とした庭には季節の花を植えてあります。毎朝、窓を開けると自然な風を感じることができます。この恵まれた環境の中で入居者様がゆったりと自分らしく生活できるよう日々支援しております。レクリエーションでは月1回のドライブを兼ねて外食日を設けております。入居者様の好みを聞き、できるだけ期待に添えるようにしております。外出先で感じる季節は認知症はあっても「きれいね。」「気持ち良いね。」と笑顔が違います。人材不足はありますが、なじみの顔が傍にいる事で入居者様が安心・安全に暮らしてもらえるよう努力してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市中心地より少し離れた自然豊かな谷山地区の一角に、有料老人ホームやデイサービス事業所と共に設置されており、近くの産業道路沿いには大型商業施設や物産館、レストラン、コンビニ等が立ち並んでいる。有料老人ホームやデイサービス事業所とは管理者会議等で情報を共有し、イベントを合同で実施する等協力体制を構築している。ホームは、地域密着型サービス事業所として住民に周知されて、散歩時の会話や友人知人の来訪、買い物、地域の清掃作業への参加、ボランティアの受け入れ等に積極的に取り組み、また、ホーム主催のイベントには、多くの家族や住民の参加が得られており、これらの交流は利用者および地域住民の楽しみとなっている。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いの把握に努め、「あなたに会えて良かった」と思ってもらえる、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。各ユニットは毎月努力目標を掲げて、利用者の意向に沿った平穏な生活環境の確保に努めており、利用者の対人関係や思考、趣味などにも配慮しながら支援している。利用者や家族からの意見や要望に対しては、スタッフ会議等で協議して改善に取り組むなど、より良いサービスの実践に日々努めており、利用者や家族との信頼関係を構築している。

日々の食事は利用者の大きな楽しみで関心事でもあるため、職員は疾病に伴う摂取制限や提供形態、栄養バランス、嗜好等に配慮しながら、旬の食材で季節感のある食事の提供に努めている。食事が楽しみなものとなるよう、誕生会や敬老会等の行事食、レストランでの外食、弁当持参のドライブ、手作りのおやつ、家族との会食等工夫しており、職員も一緒に歓談しながら食事している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>保護申請者が8人います。キーパーソンがいない方もいるので担当者にホームの現状を伝え協力をお願いしている。</p>	<p>市担当職員には、介護保険や各種制度の手続き、利用者のケアや施設運営に関する相談等を行って、助言・指導を受けるなど協力関係を築いている。特に生活保護受給者に関しては担当ケースワーカーとの密な連携を図っている。市主催の会合や研修会に積極的に参加して、行政や他施設職員との情報交換に努め、業務やサービスの向上に繋げている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>開所以来、玄関の施錠はしないことで習慣ついている。身体拘束は行なわないケアを周知している。身体拘束は犯罪であることを内部勉強会にて周知している。</p>	<p>指針を整備し、ミーティングや身体拘束適正化委員会（3カ月毎に開催）での研修の実施や具体的事例による意見交換等で共通の認識を深め、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。昼間は施錠は行なわず、見守りや対話、寄り添いに努め、必要に応じて散歩に同行するなど工夫して安定を図っている。スピーチロックについても日頃から留意し、不適切な発言等には注意し合うなど改善に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフ会議では虐待について具体的に話して意見交換をしている。特に声かけが威圧的だったり、命令になって利用者の負担になっていないか注意し、指導している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度についての外部研修があれば、主任、リーダーが出席してスタッフ会や全体朝礼等報告している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前よりホームの仕組みや役割について説明して、家族や本人の不安や疑問に答えている。契約締結に、出来るだけ文章にて確認を行っている。改定の際には文章にて報告して確認印にて納得してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	9月の家族会では意見や要望を聞く時間を1時間程度設けている。結果は家族の面会時や運営推進会議で報告して地域の方々と意見交換をしている。スタッフ会議では今後の実践に繋げるようにしている。	日頃のケアの中で利用者の想いの理解に努め、また、家族からは、来訪や年1回の家族会時にコミュニケーションに努め、意見箱も設置するなど工夫して要望等を把握している。出された意見等は申し送りやスタッフ会議等で協議し、運営やサービスの向上に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議には、代表者、管理者が参加し、率直な意見を交換している。代表者が、出席がない時には議事録にて報告し、意見や方針を聞き、報告している。管理者は毎回出席し、意見交換を行っている。	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、業務の中やスタッフ会議、個別面談等で意見や要望を把握し、個別の悩み等も聴取して改善を図っている。スキルアップを図るための研修の実施や資格取得に対するバックアップ、勤務シフトや産休取得には職員の意向を十分反映させるなど、意欲の向上と働きやすい職場環境の整備に努めている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回スタッフの評価を行ない、代表者からスタッフに声かけして、各自が向上心を持って働けるような環境整備に努めている。条件が叶ったスタッフは正社員として登用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内勉強会を毎月行ってケアの向上に努めている。外部研修も全員が交代で参加できる体制をつくっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修にて知り得た同業者と交流し、情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前より本人が一番不安な事や要望を家族や情報提供書等で聞き、入居時には出来るだけ納得した状態で生活が始められるように努めています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前より家族に来園してもらい、家族の希望や要求をきき、出来るだけ希望に添えるように努力することをお伝えしています。家族と協力してホームでの生活を維持する為には協力をお願いしますと話している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前よりまず何を一番優先するかを話し合っています。又「その時」は家族、主治医と連携を図っていくことを確認し、体制をつくっています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>趣味等を通して楽しく生きがいを持って生活できるように声かけや見守りをしています。スタッフは業務優先にならないように体制をつくっています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に本人優先の支援を心掛けています。家族の面会時間は大切な時間と認識して邪魔をしないように配慮しています。家族の協力なしでは本人を支えていけない事をスタッフ会議などで確認しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所への訪問は家族にお願いしています。家族が無理な時にはスタッフが本人の希望する場所に同行しています。暑中見舞いや年賀状などはがき購入等支援し、関係が途切れないようにしています。	利用者の生活歴や家庭環境等を把握し、併せて馴染みに関する情報を共有している。家族や友人の来訪時には話しやすい場に配慮し、希望に沿って買い物や一時帰宅、外食、墓参等を家族と連携して支援している。「たんぼの里便り」に写真やコメントを添えて利用者の近況を伝え、遠方の家族との電話や年賀状、手紙等の取り次ぎも行なうなど、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	プライベートな時間も大切にしながら、ホールで他利用者とおしゃべりをする時間も提供しています。特に昼食後は直ぐにお部屋にてお昼寝するのではなく、ゆっくりとした時間を提供しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も年賀状の交換をして必要に応じて相談や支援に努めています。又ホームの行事（みかん狩り、ブドウ狩）などの参加への声かけをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、本人の思いや要望の把握に努力している。会話をすることで本人の意向がわかり支援に繋がっています。困難な時には家族の意向を聞き、本人優先の支援をしています。	利用者の思いや意向を日頃の会話や表情、独自のサイン等で、また、家族の意向も確認しながら把握し、生きがいのある、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。全体での活動のほか、余暇時間は利用者の意向に沿って趣味（テレビ視聴、ぬり絵他）や家事（洗濯物たたみ、調理の手伝い、下膳等）への個別の取り組みを、心身の状況に配慮しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より情報提供書や家族からの聞き取りで、本人本位の支援が出来るように努めています。本人がホームでどんな生活をしたかかを優先しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に本人から情報を出来るだけ聞き出しています。家族からの情報も大事ですが、本人の思いを聞いています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などで得た情報や本人の兼ねての行動で、本人にとってどんな支援が必要かをスタッフ会等で話し合い、実践しています。現状に合ったケアプラン作成づくりに努力しています。	本人・家族の意向や主治医の指導、モニタリングやスタッフ会議での意見を基に利用者主体の介護計画を作成しており、ケアの実施状況は「生活日誌」等に詳細に記録して共有している。定期的な見直しに加え、心身の状況の変動に対しては、実状に即した計画を作成して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録のヒヤリハットや気づきノートを、スタッフ会議で検討し意見交換を行っている。その結果をケアプランの見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況には臨機応変に対応している。本人の体調変化には、家族と連携をとって早め対応を心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事がある時にはお誘いの声かけをして、出来るだけ参加してもらっています。地域の運動会や駅伝応援など一生懸命応援する姿は元気の源のようです。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に本人や家族の希望する主治医をお願いしている。これまでホームが連携の摂れていなかった医療機関が主治医になった時には適切な医療が受けられるように支援しています。</p>	<p>各利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を家族と連携して支援しており、訪問診療や訪問歯科診療、薬剤師の訪問指導も実施されている。看護師資格を持つ職員が在籍しており、日頃から衛生や健康管理を徹底し協力医療機関との医療連携の体制も構築されて、利用者及び家族の安心に繋がっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の異変に気付いた時にはマニュアル通りの対応が出来る体制を整えている。日中はナースが常駐しているので、ナースに連絡し、指示を仰いでいます。又家族にも連絡することが必要と周知徹底している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が安心して治療を受けることができるように情報提供書を提供して支援しています。また早期に退院できるように主治医と連携を図っています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取りについて説明し理解を得て入居してもらっています。ホームで出来ること、出来ない事を明確にお話しています。家族には入居時の意向を書類にて確認しています。</p>	<p>重度化や終末期のケアに対する指針を整備し、利用開始時に本人及び家族に説明して同意を得ている。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族及び関係者は十分話し合いして可能な限り希望に沿った支援に取り組んでおり、現在も看取りの支援中である。重度化や急変時対応の研修も実施して、職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ホームにAEDを設置しておりますので、年1回は消防署による研修とナースによる実地研修を行い、緊急時に備えています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月テーマに沿った防火訓練を実施しております。出来るだけ全員のスタッフが参加できる勤務体制にしております。ホーム内での防火連絡網が出来ております。年2回の消防署立会いの総合訓練には地域の方々へチラシを配り協力をお願いしています。</p>	<p>年2回夜間想定を含む災害訓練を消防署の立会いで実施し、連絡網や避難経路の確認やAEDの訓練、消火器等の点検等の自主訓練を毎月実施している。報道による災害情報をもとに意見交換するなど、防災への認識の共有に努めている。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、飲料水や食料品、介護用品はリストを作成して備蓄している。災害訓練時には地域住民にチラシで協力を要請しているが十分ではないため、今後は協力体制の構築を検討中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合い過ぎない声かけを心掛けています。尊敬の念を忘れないようスタッフ会議で意見交換をしている。	利用者の尊厳やプライバシー確保については、スタッフ会議等で研修やケアの振り返り、意見交換を行って適切なケアの実践に取り組んでいる。排泄や入浴等の支援の際は人格や羞恥心に配慮し、利用者に関する台帳等も事務室で管理するなど適切に取り扱われている。日頃から利用者の残存機能や自己決定を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受診や外食日等外出の際は本人のお気に入りの洋服で出掛けて頂いています。その瞬間で希望が変わる時がありますが、出来るだけ希望を取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないようにスタッフ同士で声をかけ合っています。事前に希望や要望を聞いて余裕を持って行動できるようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	家族からの情報や兼ねての本人の見だしなみをみて、できる助言をしています。本人の意思を尊重した支援をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることがそれぞれ違いますので、本人に合った手伝いをお願いしています。お願いが強制にならないよう声かけには充分気をつけています。	食事の制限や形態、栄養バランス、嗜好等に配慮し、頂いた食材も活用して調理しており、職員も一緒に歓談しながら食事している。下ごしらえや片付け等は利用者も楽しみながら行っている。おせちや誕生会、敬老会等の行事食、手作りのおやつ、外食、家族との会食など食事が楽しみなものとなるよう工夫し、食事や水分の摂取状況の把握や口腔ケアをプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量を日々の記録に残し、体調管理をしています。一人ひとりの状態にあった摂取量を確保できるようにスタッフ間で声かけ合っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごとに声をかけ洗面台に案内しています。歯磨きを嫌がる時にはうがいのみの支援になる時もありますが、強制にならないように本人の意向を尊重しながら支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけオムツ使用を減らす支援が出来るようにスタッフ会議で検討しています。オムツ使用の利用者でも日中は声かけして、トイレにての排泄介助を行っています。	利用者毎の排泄パターンを把握し可能な限りトイレでの排泄を支援している。また、身体状況に応じた介護用品の工夫やケアの方法もプランに反映させて支援しており、利用者の羞恥心やプライバシー保護にも配慮している。植物繊維の多い食材や乳製品、水分の摂取、運動量等に留意して便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ体を動かすことを支援しています。レクリエーションでの指運動など積極的に行っています。車椅子移動の利用者には可能な限り自力移動への声かけを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日には本人の入りたい時間を聞き、直前に変更になることも多いですので、臨機応変に対応しています。出来るだけ入浴日と決めないで柔軟に対応できる体制をつくっています	週3回の入浴を基本とし、利用者の心身の状態に配慮しながら個浴で支援している。入浴日や時間、温度、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、ゆず湯も取り入れる等ゆっくと気持ち良く楽しめるように取り組んでいる。入浴後は水分の補給や皮膚疾患の処置を支援している。入浴をためらう利用者には、声掛けや介助者、時間の変更等で、利用者が意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢を考慮して昼食後はお昼寝を30分程度勧めています。夜間は出来るだけ音を出さないように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を必ず読むようにし、変更などはその都度確認して、日勤者に報告し、朝夕の申し送り時に情報の提供をしている。誤薬がないように二重確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、色塗り等ホームで出来る好きな事ができるように支援しています。本人に合った楽しみごとが出来るように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気がゆるす限り、園内散歩、外気浴やショッピングを楽しんでもらっています。	利用者の外出への意向を把握し健康状態や天候等に配慮しながら、日常的に園周辺の散歩や買い物、一時帰宅、墓参等の外出を家族と協力して取り組んでいる。重度化に伴い全員での外出は難しい場合もあるが、季節の花見や果物狩り、ドライブ、流しソーメン、レストランでの外食など工夫してリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、ホームでの管理が出来ない事をお話しして、ご本人の所持金は高額でない金額をお願いし、買い物の時には本人にて支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望があったり、ホームからの連絡の際は、本人にも電話にてお話しする機会をもうけています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファを置いたり、ゆっくりできる空間をつくっている。蛍光灯は出来るだけ目に優しい物を使っている。玄関や洗面所には季節の生花を飾り、気持ちよく生活できるように支援している。	ホーム全体がバリアフリーの構造で廊下やホール等は余裕のある広さが確保され、整理整頓の徹底と採光や空調等に細かに配慮されている。随所に利用者の写真や作品が掲示され、季節の活花も飾られて、和やかで清潔感のある空間となっている。ホールの一角にキッチンがあり、テーブル等の家具が利用者の利便性を考慮して設置され畳部分も設けられて、利用者は調理の音や匂い、周辺の樹木や草花に触れながら好みの場所で平穩に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った利用者との会話ができる時間をつくっている。お部屋でゆっくりされているような時には声をかけず、そっと見守るようにしています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に本人のお気に入りの物を持ち込んでいただいています。途中で自由に入れ替えて気分を変えてもらっています。</p>	<p>居室はフローリングに腰高窓の仕様で、ドア上部には災害時の避難に備えたイラストのカードが掲示され、併せて利用者が迷わないように写真や名札等で工夫されている。ベッド、エアコン、タンスが備えてあり、利用者はテレビや家族写真、寝具、小物等を自由に持ち込み自身の作品も飾って、その人らしい雰囲気の居室となっており、職員は意向を確認しながら整頓等を支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレに目印をつけたり、洗面台には常時明かりをつけて夜間でも自由に移動できるようにしています。移動に気付いたら、声かけ、見守るようにしています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない